

社会福祉法人 大阪愛心会

2020 年度 事業報告

■社会福祉法人 大阪愛心会

- (1) 社会福祉法人大阪愛心会（法人本務）
- (2) 特別養護老人ホーム事業
- (3) 短期入所生活介護事業
- (4) 通所介護事業
- (5) 地域包括支援センター

【法人事業】

1、運営事業

2014年9月1日 特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷 入所定員 50名
同 同 短期入所定員 10名
同 デイサービス 久宝寺愛の郷 利用定員 32名
2017年4月1日 地域包括支援センター業務委託(八尾市)

2、理事会

第1回 2020年7月8日

第1号議案 監事監査報告
第2号議案 2019年度事業報告について
第3号議案 2019年度決算について
その他

第2回 2021年3月10日

第1号議案 2020年度対予算進捗状況
第2号議案 2021年度予算について
第3号議案 2021年度事業計画について
第4号事案 2021年度行事計画について
第5号議案 役員、評議員の任期満了について
その他 資産運用について

3、評議員会

第1回 2020年7月22日

第1号議案 監事監査報告
第2号議案 2019年度事業報告について
第3号議案 2019年度決算について
その他

第2回 2021年3月18日

第1号議案 2020年度対予算進捗状況
第2号議案 2021年度予算について
第3号議案 2021年度事業計画について
第4号事案 2021年度行事計画について
第5号議案 役員、評議員の任期満了について
その他 資産運用について

本部報告

はじめに

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の関係で、居宅サービスの運営が影響を受けた。また、地域への貢献もあまり出来なかった。利用者の方にも面会制限が継続的に実施され、悲しい思いをさせてしまった。対策としてWeb面会を実施すると共に、一時的に感染者数が減った 11 月には、感染対策をしながら直接面会の試みも実施した。新型コロナウイルス感染の状況は、国民のワクチン接種率が一定率以上になるまでは変わらないし、接種後も変異ウイルスの関係などで、感染対策は継続することになる。このような中で家族の方もワクチンを接種されたなら、直接面会も再開できるのではないかと期待している。施設内でのクラスターは絶対発生させないという気持ちで毎日運営してきた。職員も高齢者施設で働いていることを良く自覚し、陽性者は 1 人もなかった。

運営状況

・社会福祉法人 大阪愛心会

収益は前年度と比較しマイナス 0.6%、計画に対してマイナス 0.8%であった。利益は最終的に 3,822 万円となり計画を上回った。コロナ下、大きな行事がなく経費が下がった事、各種補助金を約 900 万円頂いた事が要因である(詳細は決算報告書参照)。

・特別養護老人ホーム 久宝寺愛の郷(50 床)

入居者の要介護度の平均は 4.4、平均年齢は 86.2 歳だった。平均の入所数も 49.6、平均稼働率 99.1%(入院はマイナスとして計算)とほぼ満床の状態推移した。退所は 10 名で昨年と比較すると 4 名少なかった。看取りを積極的に推進し、9 名の方を看取らせていただいた。事業収入としては、前期比 +2.9%となった。課題としては、100 名を超える入居待ちの方への対応と利用者の方の医療依存度が増加していることである。

・ショートステイ久宝寺愛の郷(10 床)

平均稼働率は 96.5%、平均要介護度は 3.2 で目標を達成した。緊急事態宣言が発令される度にキャンセルが発生し、かなり苦労した結果だけに評価できる。要望は多く 2 ヶ月先の予約を取っているが、感染下でも 100%に近い状況であるため、緊急にお応えできない状況は継続している。事業収入は前年度比マイナス 3.1%となった。課題は 10 室という小規模の事業運営で、何処まで地域ニーズに添えていけるかである。

・デイサービス久宝寺愛の郷(定員 35 名)

平均稼働率は 73.8%と昨年度の 80.8%を大きく下回った。81 名おられた登録数も 2 月に 68 名になってしまった。また、要介護度の平均は 3.1。新型コロナウイルス感染症に対する 3 度の緊急事態宣言が大きく影響し、利用者の利用控えが多くあった。また、当日キャンセルも 2~3 名あり、この対策も不十分である。このような状況の中で個別機能訓練に力を入れており、今後も、この方向性を変えずより良いサービスを提供していく。事業収入は前年比マイナス 7.4%だった。課題は、感染対策を実施しながら、登録数を増やすことである。

八尾市地域包括支援センター(公益事業)

相談受付件数も今年はマルマル 4,105 件と 7%増加。要支援のプラン委託は 3,025 件で僅かに減少し

た。困難事例の相談も増えており、現状の人員では、地域のニーズに十分な対応ができない状況である。介護予防教室や家族介護教室なども開催し、地域への情報提供も積極的に行った(緊急事態宣言時は中止)。高齢化していく中で、地域での役割は益々重要となってくる。課題としては、来年度から引き続き、土日の相談業務を実施できる体制づくりである。

職員の状況

どの職種も雇用が難しいのは、当施設においても例外ではない。離職率を減らすために、昨年度から職員エンゲージメント活動を実施してきた。昨年度の離職者は4名(常勤3名、非常勤1名)、内常勤1名は定年後退職だった(離職率9%)。勤務形態は、昨年度と比較すると常勤が2名増え、常勤換算値で全職員は1名減少した。今後の人材獲得戦略として、外国人材の受け入れを考慮したい。職員の平均年齢が48.5歳となっているため、事業継続のためにも若返りを考えていかなければならない。職員一人ひとりが愛の郷に愛着を持ち、職員と愛の郷が一体となってお互いに成長し合っていける環境を作ることが重要である。

職員数

部門	職種	常勤	非常勤		人数計	換算計
			人数	換算		
	管理者	3			3	3.0
特養	事務	1	1	0.5	2	1.5
	生活相談員	1			1	1.0
	介護支援専門員	1			1	1.0
	医師		2	0.2	2	0.2
	看護部	3	1	0.3	4	3.3
	栄養部	5	4	1.4	9	6.4
	介護職	21	10	6.0	31	27.0
短期入所	介護職員	5	2	1.6	7	6.6
デイ	生活相談員				0	0.0
	看護部	1	1	0.7	2	1.7
	機能訓練	1			1	1
	介護職員	1	6	4.7	8	6.7
	運転手		2	1.0	2	1.0
地域包括	ケアマネ・保健師	2			2	2.0
合計		46	29	16.4	75	62.4

【特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷】 高畑係長

当年度は、入居者の皆様へ施設でのありふれた日常を大切に過ごして頂くこと、また職員については、エンゲージメント思考の定着を掲げた。安全、安心が確保できる施設づくりとして、入居者の思いを大切にしたい個別支援の取組みが行えるよう、24時間シートの作成、活用に努めた。

新型コロナウイルス感染拡大となり予防対策の為、ご家族との面会が出来なくなる中、より家庭的

な雰囲気意識し、ご家族の代わりとなれるよう心身ともにサポートを行った。外出行事等も中止となる為、各ユニットで入居者様の希望を伺い、各々にレクリエーションを実施した。日々の業務では、施設内外の教育研修を通して職員の力量向上、また生産性の向上を図り多職種連携の下、現職員の離職低下に努めた。

1、入所定員 50名

2、入居者の状況

(1)入退居状況

2020年度中入退居状況は次の通り。

[月毎の入居数、退居数]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居数	1	1	0	1	1	1	0	1	4	0	0	0	10
退居数	1	1	0	1	1	1	0	2	3	0	0	0	10
末日の人数	50	50	50	50	50	50	50	49	50	50	50	50	

[入居前の状況]

合計数	病院	老健	サ高住	在宅	その他施設
10	1	1	2	5	1

[退居後の状況]

合計数	長期入院	他施設への転居	医療機関への転居	死亡(看取り)	死亡(入院中)	死亡(施設)	在宅
10	0	0	0	9	0	1	0

(2)構成

2021年3月時点での入居者構成は次の通り。

	男性	女性	全体
最高年齢	94	100	
平均年齢	80	87	86
平均要介護度	4.6	4.4	4.4

(3)稼働率(%) 入院は一時的退出として計算

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
99.4	99.4	98.1	99.1	98.8	100	97.5	97.9	99.7	98.8	100	100

【介護支援専門員】 中脇主任ケアマネ

新型コロナウイルス感染予防対策や、緊急事態宣言が出されたこともあり、家族様にお越しいただき開催する、「担当者会議」が出来ない状態が続いています。その中でも、お看取り介護の方や新規入居の方、日常生活動作に大きく変化が見られた方は短時間での担当者会議を行い、家族様と職員のつながりが持てる様、施設での生活状況をお伝えし、少しでも安心して頂けるようにと心がけました。開催が難しい方は、ユニット会議や各委員会での入居者様のご様子や健康状態などの情報、各専門職員の意見を聞きながら、サービス内容の見直し、作成を

行いました。計画書は郵送し、お電話で家族様へ内容を説明し、ご要望やご意向を伺って対応させて頂きました。

【生活相談員】 高畑係長

当年度は在宅からの新規入居が多く、地域や関係施設との連携を図り、入居を希望相談される方、申込みされる方の様々な背景を考慮し、入居の調整を行った。毎年度、退居者が出た際に空室期間が長くないよう、迅速に次の入居者の受け入れができるよう体制を整備、空床期間を短縮し、1日間以内に入居受け入れとなるよう努めた。経営収支の面では稼働率ほぼ 100%、また加算算定は維持できたが、平均要介護度目標 4.5 は 0.1 下回り 4.4 平均となった。重介護者の受け入れを積極的に行う一方、介護負担増強となるため、ユニット単位で入居調整が必要である。今後も生活実態を元に、あらゆる支援、援助の方法を検討し、重介護へ対応できるよう整備していく。

コロナ禍の中、面会制限解除に至らず、少しでも入居者、ご家族様ともに不安が軽減できるよう、5月よりオンライン面会を実施し、毎月発行している新聞や手紙付きのポストカードを郵送、日々の状況、状態変化等についても多職種連携のもと、ユニットリーダーを中心に情報共有に努めた。今後も感染拡大予防対策が継続されることを踏まえ、面会ができる環境を検討しなければならない。

【介護】 高畑係長

日常生活において 24 時間シートを活用し、個々の身体状況に合わせて生活環境の提供に努めた。重介護者の受け入れとなる中、出来る限り自立動作を支援し、また個々の生活リズムや自己決定を大切に、日々の暮らしに楽しみや喜びが見出せるよう工夫を重ねた。

畑を拡大し季節ごとに出来る作物や花を楽しまれる方、喫茶クラブに参加され交流を楽しまれる方、また各ユニットで毎月開催されるおやつや食事レクリエーションを楽しみにされる方、様々な取組を行いコロナ禍での対策を講じた。サポートが多方面で必要となったが、職員においても喜んで下さる入居者様を目の当たりにし回数を重ねるごとに実施への意欲向上、喜びへと繋がった。面会中止となりご家族に会えない為、心身共に影響が大きい入居者様へのより一層のケアが必要となっている。今後もありふれた日常生活の中で、様々な取組を実施し、ケア全体が向上となるよう努めていく。

【医務】 山本看護師長

1. 健康管理

R2年4月～R3年3月

入院:9名 救急要請:8件 時間外受診 4件 入院中病院にて死亡:0名

平均入院日数:17.8日

入院病名:尿路感染症・大腿部頸部骨折・慢性心不全・疼痛コントロール・腸炎・誤嚥性肺炎

前年度に比較して受診件数は約 31 件の増加がみられ、特に形成外科が 36 件と最高数となった。

入院数、入院期間(平均日数)も増加、救急搬送依頼も 5 件の増加であった。

【受件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	0	1	1	0	2	0	0	2	0	3	2	0	11
皮膚科	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	1	5
循環器内科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	4
形成外科	0	0	0	2	3	4	5	4	0	5	9	4	36

整形外科	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	2	7
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
眼科	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5
神経内科	0	1	2	0	0	1	0	1	1	1	2	2	11
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
時間外受診	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	4
合計	1	3	5	3	6	8	8	14	3	11	16	10	88

【入院数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
月別人数	1	1	3	2	1	0	3	0	1	0	2	0	14	1.2
延べ日数	7	10	27	11	18	0	38	68	0	17	0	0	196	16.3

【急搬送件数】 ※八尾徳洲会病院・八尾市立市民病院・貴

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送	2	0	0	0	1	1	1	0	1	0	2	0	8

救急搬送内容:転倒による骨折疑い 3件 心筋梗塞・腸炎 2件 慢性心不全1件
 尿路感染・尿管結石 1件 短期入居者 3件(発熱・意識レベル低下等)

2.施設退去者状況

施設内看取り介護:9名

(老衰・慢性腎不全・慢性心不全・誤嚥性肺炎等)

医療連携施設:八尾徳洲会総合病院・貴島病院・清心会メンタルクリニック・ハローデンタルクリニック・甲野クリニック・八尾市民病院

前年度に比較して看取り介護により、最後をむかえる方が全員となった。

医療的ケアが必要なための退去(転院)はなく、ほぼ全員の方が当施設にて看取り介護にて終の棲家となった。

3.感染症対策

○結核予防 胸部レントゲン:入居者 8月に施行

○インフルエンザ予防接種:入居者・職員 11月に施行

○新型コロナウイルス

職員一斉唾液検査 3回施行(12月:八尾徳洲会病院・2月:国 3月:国)

新型コロナワクチン予防接種 職員:20名(1回目)施行:3月

体調不良、有熱者:八尾徳洲会病院にてPCR検査:述べ15名受診も陰性

(R2・7月～R3・3月期間)

○その他

インフルエンザ罹患・・・2名。(職員) 入居者 0名

ノロウイルス・・・0名。

【栄養】 武田主任

行事食や旬の食材を取り入れた季節感のある献立を取り入れ、家庭的で美味しい料理を目指して注力した。昨年度は、月 1 回デイサービスにてメインを2品から選べる選択食を開始し、ご利用者の皆様に好評だった。また、入居者様については、栄養マネジメントによる一人ひとりに合わせた栄養管理、経口維持加算による摂食嚥下機能障害のある方への専門的なケアを継続して提供できた。感染症予防の為、外出や大勢でのイベント食が実施できない状況であったが、ユニット単位での食事レクリエーションを毎月行い、食事を楽しんでいただけるように介護部と協力することができた。

1.職員体制

職種	常勤	非常勤	合計
管理栄養士	1	0	1
栄養士	1	0	1
調理師	3	0	3
調理員	0	4	4
合計	5	4	9

2.行事食・季節料理

4月:春散し寿司(菜の花、桜田夫)、ご当地メニュー(味噌とんかつ)、イースター(目玉焼きハンバーグ、ひよこまんじゅう)、寿司パーティー(握りずし、茶碗蒸し)

5月:端午の節句(ハンバーグ、柏餅風和菓子)

6月:夏の献立(トマト、ピーマン、冬瓜、枝豆、ズッキーニ、とうもろこし等)

7月:七夕(七夕そうめん)、土用の丑(うなぎの蒲焼)、夏野菜カレー(オクラ、なす、南瓜)

8月:夏の献立(トマト、オクラ、冬瓜、ゴーヤ等)、冷やし中華、ざるそば、そうめん、冷しゃぶ

9月:開設記念日(赤飯、紅白饅頭)、重陽の節句(栗御飯)、敬老の日(天ぶら盛)、秋の献立(あさり御飯、まつたけ御飯、里芋の煮物、月見そば)、秋分の日(おはぎ風和菓子)

10月:ハロウィン(カボチャ包み揚げ、カボチャタルト)、十五夜(うさぎハンバーグ、月見ゼリー)

11月:秋の献立(秋刀魚、さつま芋、南瓜、茄子、きのこ類等)

12月:冬至(南瓜)、クリスマス(デザートバイキング)、大晦日(年越しそば)

1月:正月(おせち料理、七草粥)、鏡開き(ぜんざい)

2月:節分(イワシ、巻き寿司)、バレンタイン(チョコレート菓子)

3月:ひな祭り(散らし寿司、三色ゼリー)、春分の日(ぼたもち風和菓子)、

春の天ぶら(たらの芽、姫竹)、お花見(桜餅風和菓子、桜ご飯、菜種焼き)

【ショートステイ(短期入所生活介護)久宝寺愛の郷】 寺田副主任

1.職員体制

職種	常勤	非常勤	合計
介護兼相談員	1	0	1
看護師	0	0	0
介護職員	4	2	6
合計	5	2	7

2. 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	35	37	33	39	38	37	39	36	36	36	33	31
利用延人数	295	300	298	304	300	263	290	297	306	288	284	297
稼働率(%)	98.3	96.8	99.3	98.1	96.8	87.0	93.5	99.0	98.7	92.9	101.4	95.8

3. 取り組み

前年と同様、日々利用者が入れ替わる中で、利用者の方々が在宅生活を継続出来るようご家族様、各事業所との情報共有、報告・連絡・相談を徹底して行った。介護職員も常勤を増やし、サービスの質(入所中の余暇活動/脳トレ/運動不足予防の散歩)の向上をはかった。利用者の約9割はリピーターであり、日々の業務の質が評価されたものと思う。新型コロナの感染症が問題となった3月も、利用者の方が困らないようにと受入を継続した。ただ、平均要介護度が3.2であるため、転倒による事故も発生した。今後、事故防止の対策を強化する必要がある。

【デイサービス(通所介護)久宝寺愛の郷】 田中管理者

新旧職員が融合し、引き続き利用者様との信頼関係を築けた。新規利用者の獲得も順調にできたが、新型コロナ感染性の影響で感染予防の為に休みされる利用者が多くみられた。稼働率は月平均75%(定員32名として)、1日の平均利用者数23.8名(前年比-2.1人)となった。今後は継続して、居宅支援事業所への営業活動、自施設ショートステイと情報共有しながら、在宅で頑張っておられるご利用者様のサポートをしていきたい。

1. 職員体制

職種	常勤	非常勤	合計
管理者	1	0	1
生活相談員	(1)	0	1
看護師	0	2	2
機能訓練指導員	1	0	1
介護職員	2	6	8
送迎担当(運転手)	0	2	2
合計	4	10	14

2. 利用者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延利用者数	586	573	676	722	627	633	659	619	603	551	546	631
延利用日数	26	26	26	27	26	26	27	25	27	24	24	27
稼働率(%)	70	69	81	84	75	79	76	77	70	72	71	73

3. 取り組み

新型コロナウイルス感染対策として、利用者同士の密接な交流を予防する為、集団でのレクリエーションではなく、個別のレクリエーション、作品制作に力を入れた。パーティションや空気清浄器の導入、職員のゴーグル着用など感染予防対策にも取り組んだ。

個別機能訓練も前年度に引き続き徐々にではあるが、人数も増加してきている。ケアマネージャ

への営業活動に動画サイトを使用し、ケアマネージャーのスマートフォンで、事業所の設備が閲覧できるよう環境を整えていく。

次年度では、新型コロナウイルス感染症の動向をみながら、さらに楽しんで頂ける様な取組をしていく。また、新たに科学的介護推進体制加算を算定し、収入の増加を図っていく。

【八尾市地域包括支援センター 久宝寺愛の郷】 鶴管理者

新型コロナウイルス感染症防止のため、久宝寺・美園小学校区での地域活動が縮小されるなか、高齢者あんしんセンターとして周知活動を可能な範囲で行いました。

1.職員体制

	常勤	非常勤	合計
社会福祉士 (管理者兼務)	1	0	1
主任介護支援専門員	1	0	1
保健師	1	0	1
	3	0	3

2.利用者数(2020年度)

項目	年月												合計	月平均
	20 4	5	6	7	8	9	10	11	12	21 1	2	3		
直接プラン 介護予防支援費	3	4	4	5	5	5	5	5	4	5	5	5	55	5
直接プラン マネジメント費	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	27	2
原案委託 介護予防支援費	150	159	164	159	154	156	154	151	152	149	150	156	1,854	155
原案委託 マネジメント費	95	103	94	91	85	88	89	91	92	88	86	87	1,089	91
合計	251	269	265	257	246	251	250	249	250	244	243	250	3,025	252
相談受付	311	380	383	375	363	348	350	308	324	322	282	359	4,105	342
介護予防教室 (グループ・個別)	0	0	0	14	9	6	5	4	6	6	9	17	76	6
家族介護教室 (グループ・個別)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3	0
地域行事	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	2	7	1

実態把握	15	18	19	20	18	22	28	22	19	25	27	13	246	21
徘徊実態把握 定額給付訪問	0	0	0	10	12	0	0	0	0	0	0	0	22	2
河内音頭立ち上げ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教室新規参加者	0	0	0	0	0	0	18	3	3	4	0	9	37	3

3.取り組み

介護予防教室は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月から9月と1月から2月が実施できませんでした。地域行事も殆ど中止される中、センターの周知活動の困難さを実感したと共に、改めて地域と共にあるセンターであることを確認しました。教室開催の代替として、訪問や電話による個別訪問を実施して、介護予防の取り組みを実施しています。

要支援1・2の介護保険利用者を地域の介護支援専門員と協力して支援する原案委託業務を継続的に実施しています。支援内容の適正化とともに、支援困難である内容を一緒に考える包括的業務を実施しています。

高齢者虐待や認知症の対応を中心に、権利擁護事業の支援を継続的に実施しています。8月には、八尾市からの依頼で特別定額給付金未申請者の訪問推奨を行いました。

相談受付は、前年度より500件程の増加であり、内容が困難で継続的に関わりを持っているケースが増えています。加えて、地域からの相談事に電話対応や訪問活動を実施し、総合相談窓口としての機能を果たしています。昨年度より課題であった職員が訪問中での事務所不在時の対応は、転送と留守番電話機能を活用しています。

2020年度 事故報告・ヒヤリハット報告について

生活相談員 高畑 洋子

1. 事故件数

■事故(アクシデント):137件 2019年度より17件増

■ヒヤリハット(インシデント)件数:78件 2019年度より18件増

2. 事故分析(アクシデント)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	件数
食事		1				2						1	4
転倒	4	1	4	2			1	4	7	3		1	27
転落・ずり落ち	3	1	5	6	2		2		4	6	3	3	35
入浴	1						1			1	1		4
与薬	3		5	2	1	3	3	2	1	2			22
利用者の出来事		2	6	1	1	2	1	2	3	1	1	1	21
その他	4	3			2	2	2	2	3	3	2	1	24
計	15	8	20	11	6	9	10	10	18	16	7	7	137

(ヒヤリハット)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	件数
食事					1								1
転倒													
転落・ずり落ち		3		1	1		1	2	1				9
入浴													
与薬			4		1			1	1				7
利用者の出来事	9	1	9		2	3	3	1	3	2	2	2	37
その他	1	2	2	1	3	2		2	2		3	2	20
計	10	6	15	2	8	5	4	10	7	2	5	4	78

昨年度転倒事故の発生率が多く 21%であったが、2020 年度は転落・ずり落ちが 21%、次いで与薬が 14%、転倒 13%の発生であった。与薬発生率減少したが、マニュアル見直し改善図るも人的ミスでの事故減少には至らなかった。現在も見直し、職員への指導を実施している。転落・ずり落ち事故については、ベッドや車いすからと、下肢筋力が低下する中、危険に対する認識が出来ず、自身で動かれてしまい事故に至る事が多い。またショートステイ利用者の方にも多くみられる自室内行動での事故も、極力、家庭内生活と同じように環境を設定し、常時見守りが出来ないため、特にリスクが高い方へ、人感センサー・起き上がりセンサーを使用、事故防止に努めた。

3.行政報告

骨折 2 件 ⇒ 事故の種類:転倒 1 件、 要因不明 1 件

口腔内裂傷 2 件 ⇒ 事故の種類:転倒 2 件

右眉裂傷 1 件 ⇒ 事故の種類:転落 1 件

4.その他

見守り支援対策として、居室内カメラ付きセンサーの試用を今年度も実施したが、センサーが作動した時点で駆けつけることとなり、現状導入までには至らず、人感センサー他マットセンサーで早期行動把握、事故防止に努めている。